

第 2 回 嚮陽会館複合交流施設整備検討委員会議事録

日 時：令和 5 年 10 月 12 日（木） 14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：第 2 委員会室

出席者：嚮陽会館複合交流施設整備検討委員会委員 14 名中 11 名

鯖江市：総務部長、政策経営部長、健康福祉部長
行政管理課長、市民活躍課長、子育て支援課長
事務局（総合政策課）

議事 1 嚮陽会館複合交流施設整備に関する基本的方向性について（資料 No. 2）

議事 2 全体整備スケジュールについて（資料 No. 3）

事務局説明

委員 空調関係は施設整備。建物自体の施設は担保されるのか。耐久年数などもいれるのか。

委員長 資料 2 基本方向性について「こどものあそび場」「NPO センター市民市役所」「みんなのホール」をやるが今のままではできない。建物の中の割り付けを変える必要があるのと、建物の中の躯体が老朽化している場合は強化する工事が発生する。この検査は専門家でないとできないので、基本計画で検査を行う。基本的方向性の実現のため嚮陽会館が安全に運用できるものになるか基本計画で考えてもらうとよい。

委員 第 1 工事、第 2 工事、第 3 工事とあけてしまうのはいかがなものか。嚮陽会館を多面的に使う上で、使い道が絞られてしまうと 1 年ごとに区切って工事する必要はあるのか。検討委員会はどのように使うのか検討するところ。新聞等で使い方を先に出してしまうと検討委員会はどのような位置づけになるのか。どのように市民に活用するか検討する委員会であるので、工事が分けられてしまうとある程度方向性は決まっていると捉えられてしまう。

委員長 第 1～3 期の工事は財源との関わりがあり流動的なもの。工程が進む中で検討委員会の役割を整理すべき。公募型プロポーザルを行うとコンサルが決まり事務局と基本計画を考えていく。基本計画の中で原案ができるがそれを検討委員会という第 3 者の目を入れる必要がある。基本計画案を検討委員会が吟味することで大きな役割を果たす。様々な立場からの視点が期待できる。現在事務局は基本的な方向性を示しており、いま議論することは少ないのかもしれない。基本計画案が出たときにしっかり吟味しコメントすることになる。

事務局 これはあくまでも市の考えを事務局が整理したものである。基本計画は道標となるので、検討委員会ではそれを作り上げるまで議論していただきたい。

委員 プロポーザルが今年度と次年度 2 回に渡っているが、具体的にどういったものか。

事務局 令和 5 年度に書いてあるものが基本計画策定を委託する業者を選定するプロポーザルである。令和 6 年度に書かれているプロポーザルでは基本設計、実施設計と順次進めていくために業者の選定を行う。

委員長 基本計画、基本設計、実施設計を一括してプロポーザルをすることもある。今回、鯖江市は 2 つに分けてより慎重に進めるということである。嚮陽会館は市にとって文化的な重要な施設。我々は基本計画をしっかりとみて、そのあと基本計画にそった設計を行っていく。2 段階にすれば安全だと思う。スケジュールは変化していくものなので、たたき台として出されていると思う。資料 2 と 3 の基本的方向性とスケジュール案はこのままでいいともよろしいか。

委員 異議なし。

その他

(1) 基本計画策定業務公募型プロポーザルについて(資料No.4・No.5)

事務局 資料 4、5 を説明。

委員長 入札ではなくプロポーザルなのが重要。嚮陽会館は重要な施設なので、基本計画はもう一段階、二段階レベルを上げたい。計画の専門家にやってもらうのが一番よい。計画の専門家はたくさんいる中、計画内容などで選ぶにはプロポーザルになる。嚮陽会館のリニューアルを鯖江市の文化的集積地の拠点として、日本、世界的に見ていくための鯖江市のチャレンジである。審査をする側が重要な役割を担う。中身ではなくプレゼン能力で評価してしまうことがある。

委員 ハード系のものは特に見た目が大きく出るところがある。デザイン性も必要だが、嚮陽会館の目的を実現してくれるところに重きを置きたい。また、一緒に作り上げていける会社を選ぶことも大事。

委員長 一緒にいいものを作り上げる相手を選ぶのがプロポーザルである。

(2) 検討委員会のスケジュールについて

事務局 基本計画の策定が 11 月頃からはじまる。市民アンケート、団体アンケート、市民参加型 WS を行い、意見をなるべく早くいただき、基本計画に落としていきたいと思っている。各団体からの意見は、検討員会で共有し協議いただきたい。

概算事業費について 1 月末に事業者から出してもらう。大まかな形が出来上がるので、そのタイミングで検討委員の意見を聞く場を設ける。今後の事業の進捗に合わせて会議を開く。

委員長 開くべき節目のタイミングがある。それ以外で委員に意見を聞きたい場合は個別対応を検討してほしい。

その他

委員 鯖江市の SDGs イベントを HP で拝見した。プラスチックの端材や湿気を利用しており良いものであった。鯖江市に訪れたいと思う目的を作る必要がある。「めがねのまち」

が全国的で有名だが、それ以外に「眼育」の取り組みがある。こういった取り組みをしている地域は他に知らない。めがねを作っているが目は大切というのを鯖江市から発信しているのは素晴らしい。今回は子供の施設ということなので、そういった部分も取り入れられるといい。小さな子供がいる保護者が鯖江に来る目的にもなるのではないか。眼育、食育、SDGsのキーワードは鯖江市や観光にとって重要なものとなる。

委員長 事務局で困っていることがあれば私を含め委員に気軽に相談していただければよい。

委員 西山全体の構想を考えているという話だが、全体像を描きながら嚮陽会館の整備を話すべきなのか。キーワードがたくさん出てくると、もう少し広く検討すべきではないかと感じる。

委員長 今のお話はランドデザインとなると思う。総合政策課が全体像を描ける。課を跨ぐことになり、描こうと思えば描けるが合意形成が難しい。嚮陽会館を先行させ、そこに西山公園を取り込んでいくほうが早く合意が取りやすいと思う。我々委員会ではできれば嚮陽会館を中心に置きながら西山公園を見ていくよう視点を揃えたい。

委員 全体をみてこの場所を考えるのは大切だと思うが、全体の合意形成を図っているうちに時間が過ぎていく事例はよくあった。嚮陽会館が1つのコンセプト、我々が伝えたことを詰めることができれば他の所に引き寄せられてくると思う。

以上